第3節　疑問から問いに発展させること

1 疑問だけで終わらないようにする

筆者は研修を担当することがよくあり、研修のなかでテーマの区切りや終了時に、「質問はありませんか？」と必ず聞きます。多くの質問が出る場合、まったくない場合などさまざまです。質問しない理由はいろいろあるでしょうが、たとえば、研修内容が理解できた場合には、質問が出ないのは当然かもしれません。

研修も仕事も同じですが、疑問に思うことがあれば、“なぜだろうか？”“どうすればよいのか？”と考えます。だから、疑問を持つことは、考えることの出発点ともいえます。

しかし、疑問があってもそれが考えることにつながらない場合もあります。疑問に思っただけで、そのままにしているからです。疑問に思ったことをいちいち考えるのは面倒だとか、そんな時間もない、たいした疑問ではないなど、その理由はさまざまです。そのために、疑問に思っていたことが現実の問題になって初めて“なぜだろう？”“どうすれば？”と考え始めることが多いのではないでしょうか。

しかし、考える力を養うためには、疑問をそのままにせず、考えるステップに発展させることが重要です。そのためには、疑問を“問い”の形に変えることです。疑問を解くための問いを発することによって、論理的思考のための道筋が開けるのです。

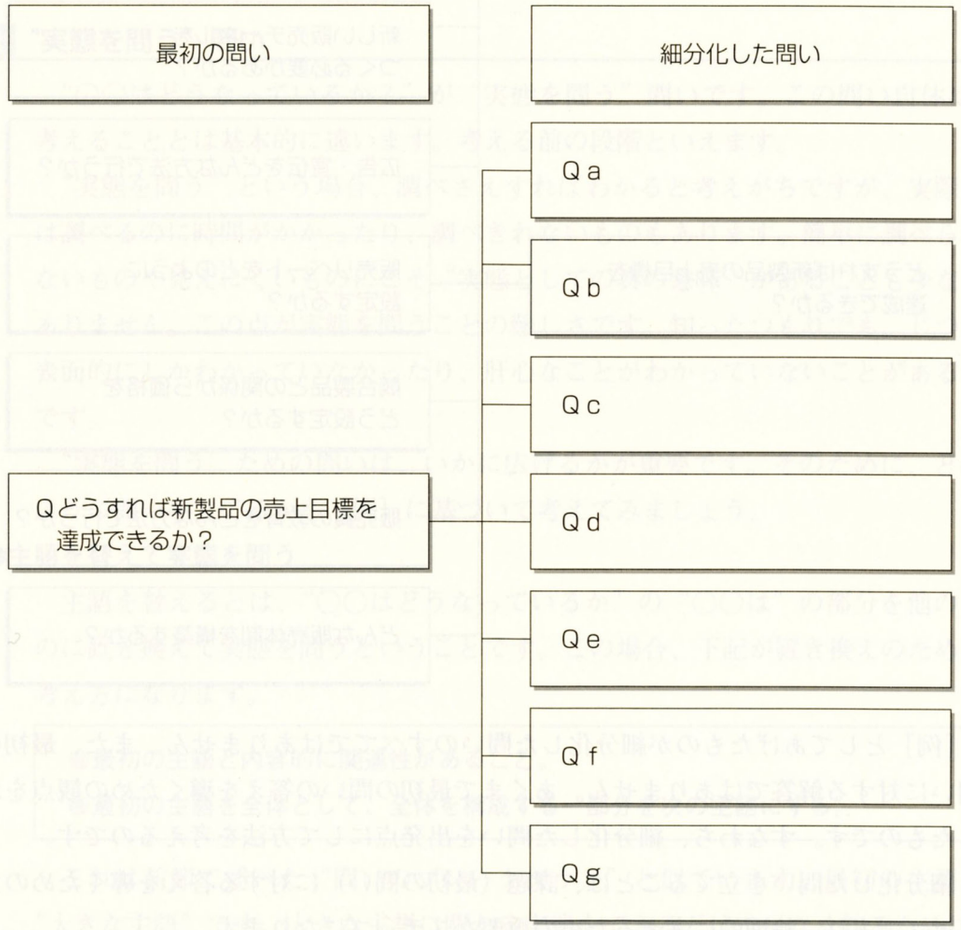
2 “問い”をブレークダウンする

たとえば、“利益率を上げるためにはどうすればよいか？”という問いを立てたとします。しかし、この問いに直接的に答えることは難しいのです。なぜなら、利益率を上げるための要因は一つや二つではなく、多くの要因が重なりあって実現できることだからです。そのため、最初の問いに答えるにはそれを細分化し、細分化された一つひとつの質問に答えていくことが必要です。

このように、最初の大きな問いを小さな問いに分けていくことを、“問いのブレークダウン”といいます。職場でも、上位者から示された目標・方針が組織の階層にそって、具体化されています。そのプロセスを目標・方針のブレークダウンと呼んでいます。

疑問を“問い”に変え、問いを“ブレークダウン”することは、論理的思考にとって重要で基本的なプロセスになります。

演習問題2　どうすれば新製品の売上目標を達成できるか？

“どうすれば新製品の売上目標を達成できるか？”について、どのように問いをブレークダウンするか考えてください。最初の問いを“Q”として、それを“細分化した問い”をQa、Qb、Qc……とします。Qgで足りない場合は、追加して記述してください。

▶Study◀　問いをブレークダウンしてみよう